

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	17
基本施策	5	観光の振興	評価責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	3	おもてなし力の強化		財務企画課長 佐々木幸博

1 施策の概要

基本方針	ホテル日の出岬の機能強化を図るとともに、日の出岬周辺の再整備、通年型土産品としての水産加工品やだったんそば関連商品等の生産増強、心づかいなどの接客マナーの向上など、ハード・ソフト両面から、雄武観光のおもてなし力を強化します。また、農家・漁家民宿の開設を積極的に支援していきます。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	本町に来町する観光客に安心して滞在してもらえる様、ホテル日の出岬を中心に満足していただくため、観光施設の整備やイベントを通じながら、おもてなしの対応をしている。	本町に来町する観光客に安心して滞在し、ホテル日の出岬を中心に満足してもらえるよう、観光施設の整備やイベントを通じながら、おもてなしの対応を心がけている。また、情報発信もわかりやすさを意識し対応している。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	恵まれた自然環境をベースにおもてなし力の強化や食を通じた農家・漁家民宿の開設には至っていない。また、町外向けの積極的な観光情報提供も「おもてなし」の強化につながることから、その充実強化に努めることも重要である。	オホーツクサイクリング等の定番イベントでは、歓迎ムードが高くおもてなし力が発揮されているが、イベント以外での「おもてなし」の定着には未だ至っておらず、全体的にはおもてなし力がやや不足している。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	年間観光入り込み客数					
	定義等	雄武町における年間観光入り込み客数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		12.5万人	11.6万人	10万人	11万人	15万人
指標2	指標名	観光イベント参加者数					
	定義等	町内で開催される観光イベントの参加人数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		3.5万人	4万人	3.3万人	3.2万人	4万人
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	オホーツクサイクリング事業	商工観光係	2,447	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】地域間交流推進事業	企画調整係	1,939	A	継続/現状維持	A
③	【再掲】武雄市児童交流事業	生涯教育係	2,653	A	継続/現状維持	A
④	【再掲】観光協会運営助成事業	商工観光係	9,620	A	継続/現状維持	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	観光施設における接客マナー等の向上に留意しており、一大イベントであるオホーツクサイクリング等においても参加者に不愉快な思いをさせないよう町民をはじめ職員等にも意識が定着してきており、妥当と判断する。
② 有効性	B	おもてなし力の強化を図ることは、本町の魅力向上にもつながり、リピーターの確保等の効果も期待できるが、町内全体に浸透しておらず、課題がある。
③ 効率性	A	おもてなし力の強化を図るために、現時点では多額の経費を必要としておらず、効率的であると判断する。
④ 公平性	A	おもてなし力の強化により観光振興を図ることは、地域の活性化に寄与するものであり、地域経済への波及効果等も期待できることから、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、イベント開催等においては、「おもてなし」を意識した議論が行われており、一定の反映が行われている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
接客マナーの向上等のソフト面は一定程度定着されているが、多様な客層に対する体制づくりに課題があるほか、農家・漁家民宿等の開設支援には至っていない。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
おもてなし力の強化により、観光振興を図る事は、町の活性化に寄与するものであり、今後においても普段からの「おもてなし」定着の促進を図り、併せて、今後においては農家・漁家民宿等の開設に向けて検討する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止